

## 体験談レポート

ユーザー： H.S(50代・男性) 埼玉県  
商品名： ニュウモラップジャケット  
テスト日時： 2009年10月24日  
アクティビティ： クライミング(奥多摩 氷川屏風岩)  
テスト環境： 曇り 気温 15 / 11 無風  
当日のレイヤリング： ニュウモラップジャケット、  
他社綿Tシャツ、他社化繊長袖ジップネック、  
フラッドラッシュスキムメッシュT



### ～ 登攀中に脱ぎ着ができないアルパインクライミングに重宝しそう～

この時期のクライミングは登っている時は汗をかくがビレイ中は寒さを感じる厄介な季節である。今回はビレイ中の防寒対策としてニュウモラップをアウターとして携行した。

奥多摩駅から氷川屏風岩までのアプローチは30分ほどの登りが続く。当日は気温が高く風もなかったがニュウモラップの放熱性を確認するために着て歩き始め、下山が思いやられるような急登の登山道に入ってから脱いで登った。クライミング中はニュウモラップを脱ぎ、ビレイや休憩中に保温のために着用した。また最後に動きやすさと放熱性を確認するためにあえてニュウモラップを着用してクライミングを行ってみた。以下にその感想を述べる。

#### 1. 収納性

生地が薄く嵩張らないので収納性が非常によい。寒い時期のフリークライミングではアウターの脱ぎ着を頻繁に繰り返すことになるので、ザックの雨蓋に収納できることが大変有難かった。これはBCスキーでも有効な武器になると思われる。

#### 2. ピットジップの構造とファスナーの操作性

他社製品のピットジップは肘の裏からわきの下を通してわき腹にかけて設けられているものがほとんどであるが、この構造ではファスナーを開けても開口部が広がらないだけでなく、腕で覆われてしまうために実質の放熱面積は見た目ほど大きくない。また、ファスナーのスライダーが肘の裏やわきの下に位置するのでその開閉操作が非常にしづらかった。これに対しニュウモラップのピットジップは前面サイド部分に斜めに開口するように作られているので大きな放熱面積が確保されていた。当然スライダーの操作性も格段に良い

#### 3. 放熱性と運動性

当日は比較的気温が高かったが透湿性の高い生地と開口の大きなピットジップ構造のためか、アプローチにおいても登攀においても汗や熱のこもりなどの不快感を覚えることは全くなかった。また薄くしなやかで多少の伸縮性もあるのでムーブを妨げられることがなく、着ている事を全く意識せずに登る事ができた。僅か1回の使用ではあるが、適用温度幅の広さが想像されることや動きやすさの観点から、登攀中に脱ぎ着ができないアルパインクライミングにも重宝しそうで来季が楽しみである。

#### 4. その他

今回は天候が良く防風性や保温性の確認ができなかったが、近いうちにMTBやBCスキーに使用してその機能を報告したいと思う。

